

## 告 辞

本日ここに、東京農工大学大学院連合農学研究科を構成する茨城大学学長池田幸雄先生、および宇都宮大学学長 菅野長右エ門先生をはじめ、各構成大学の農学部長、理事のご臨席のもと、平成二〇年度の学位記授与式を挙げていただけますことは、本研究科全構成員の大きな喜びとするところであります。

本日、学位記を授与されました課程博士四十八名、論文博士十三名、合計六十一名の皆さん、おめでとうございます。皆様がこれまでの研鑽と努力の結果、博士の学位を取得されたことに対し、我々一同、心よりお祝いを申し上げます。本日の修了者の中には、アジアとヨーロッパの八カ国から十九名の留学生が含まれております。皆さんは異なる言語、文化、習慣の壁を克服し、学位を取得されました。今日までの努力に対して深く敬意を表します。

博士号を取得された皆さんは今日からは研究者として独り立ちし、独自のフロンティアを切り開いていかれると思います。博士とは「学問または一つの専門分野にひろく通じた人」と定義されます。皆さんが博士論文をまとめる中で身につけた専門知識はその分野でのスペシャリストというにふさわしい高度なものですし、博士号の取得は、研究者として歩むこれからの長い人生の中でも、一つの区切りであることは間違いありません。しかしこれはゴールではありません。新たなスタートなのです。皆さんは四月から新しい環境での新たな研究生活に向け、大きな目標たて、それに向かって進もうという意欲に燃えていることと思います。是非大望を抱いて進んで下さい。浄土宗の開祖である法然の言葉に、「一丈の堀を超えんと思う人は、一丈五尺を超えんと思うべきなり」というのがあります。何事も必要最小限の目標では、目的は達せられません。また、目標設定が高いほど、それに到達できるように一層の努力をするし、自分自身の持つ本当の力を発揮できるものだ、という意味の言葉です。たゆまぬ努力こそ大きな力なのです。偉大な先人の言葉の中に、この種の言葉は枚挙に遑がありません。

黄熱病や梅毒の研究で有名な細菌学者で、千円札の肖像に使われている野口英世は「誰よりも、三倍、四倍、五倍勉強するもの、それが天才だ」と言っておりますし、名君として名高い米沢藩主上杉鷹山の

「為せば成る、為さねば成らぬ何事も、成らぬは人の為さぬなりけり」という言葉はあまりにも有名です。また、本田技研工業の創立者である本田宗一郎氏は、

「何もやらず、頭から「出来るわけが無い」と決めて掛かる発想が私は一番嫌いである。」とっております。

昨年は四人の日本人がノーベル賞を受賞し国内は沸きましたが、それぞれの科学者の努力は生半可ではなかったはずで、例えば、対象性の破れの発見の功績で物理学賞を受賞された益川敏英博士は風呂の中でも熟考に熟考を重ねて閃きを得ております。オワンクラゲの緑色蛍光タンパク質の発見と生命科学への貢献により化学賞を受賞された下村脩博士の場合では、家族総出でオワンクラゲを大量に集めるという地道な努力があったればこそ成功でありました。

皆さん、博士論文をまとめるこれまでの道は決して生易しいものではなかったと思います。研究に行き詰まり、悩みに悩んだこともあったかもしれません。しかし皆様はその壁を見事に乗り越えました。素晴らしいことです。皆さんが示されたたゆまぬ努力と研鑽に拍手を送りたいと思います。しかしこれは一つの過程であると考えべきでしょう。学問に到達点はありません。これからの新しい研究生活の中で、これまで以上に高い目標を掲げて、それに向かって大いに努力して下さい。

いま我々は、地球温暖化や環境汚染、食料不足、エネルギー不足など、人類の生存そのものを脅かす大問題に直面しております。これらを如何に解決するかは二十一世紀の科学技術に課された重要課題です。皆さんは自らの専門を通して、これらの問題解決に広い範囲で貢献できますし、課題解決の中核を担える立場にあります。連合農学研究科修了生である皆さんがそのような人類の生存を脅かすグローバルな課題を解決し、持続的な地球環境の回復に大きく貢献されることを期待したいと思います。皆さんは我々の期待の星です。

このような指導的立場に立つ皆さんにお願いがあります。研究者として、技術者として、そして社会人としての高い倫理観を失わないでください。今、世界は百年に一度といわれる深刻な経済不況の真ただ中にあります。政治的にも経済的にも極めて不透明な状況にあります。このような時であっても、上に立つ人には高い倫理観に裏打ちされた着実な努力で全体を誤り無き方向に導くことが求められます。その誠の努力こそ必ずや報われ、その先には明るい未来が待ち受けているでしょう。「天網恢恢疎にして漏らさず」です。

終わりに、博士となられた皆様には、これまでに修得された学識と技術を存分に活かして活躍されますよう祈念し、連合農学研究科のさらなる発展のため、構成大学である茨城大学、宇都宮大学、そして東京農工大学のさらなる発展のため、同窓会活動などを通じて、ご支援くださいますようお願い申し上げます。また、留学生の皆さんには本学で身につけた知識や技術を通して、母国の発展のために大いに活躍して下さい。さらに、

皆さんの母国と日本との友好の架け橋となっただくようお願い致しまして、ここに告辞いたします。

平成二十一年三月十三日  
東京農工大学長 小畑 秀文